

令和五年度 専願入学試験問題

国語

注意 答えはすべて解答用紙に記入すること。

純真高等学校

—
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

本を読んでいると、「どうしてこんなことが書いてあるのだろうか？」と疑問に思う部分が多々ある。どんなに好きな作家でも、(注)所詮はアカの他人が書いているのだから、当然である。読みながら、a納得できないと感じたり、こう書いたほうがいいんじゃないかと自分なりに考えてみたりすることもあろう。自分が作者であったならとシミュレートしてみることは、スロー・リーディングの楽しみの一つである。

とにかく、大切なのは、立ち止まって、「どうして？」と考えることだ。本というのは、そういった疑問を持ったbシユンカンに、そういう疑問を持った人だけに、こっそりとその秘密を語り始めるものなのだ。疑問を持ったら、素通りせず、ましてや一方的に本の欠陥などと決めつけずに、②虚心にその一節に耳を傾けてみよう。 A、そのときには理解できなくても、そうして気にかけることで、その一節は読後も記憶に残り続け、何年か経つてから、「ああ、ずっと不思議だったけど、あれはそういうことだったのか！」と理解できるときに訪れるものである。そのとき初めて、長い時間をかけて、作者の最も深い場所から発せられた声は、読者に届くのである。(中略)

長い歴史の中で多くの人が得てきた豊かな内容を、ほんの少しでも自分も得たいと考えるならば、まずはゆっくりと時間を取って、「なぜ、わざわざ、作者はこんな書き方をしているのだろうか？なぜ、B、こんなことを書いているのだろうか？」と考えるところから始めなければならぬ。それは、新書やビジネス書のように、今日、明日役に立つことは教えてはくれないかもしれないが、自分自身の価値観を大きく揺さぶるような経験をもたらしてくれるかもしれないのである。(中略)

言葉というものは、地球cキボの非常に大きな知の球体であり、そのほんの小さな一点に光を当てたものが一冊の本という存在ではないかと思う。一つの作品を支えているのは、それまでの文学や哲学、宗教、歴史などの膨大な言葉の積み重ねである。そう考えるとき、私たちは、本を「先へ」と早足で読み進めていくというのではなく、「奥へ」とより深く読み込んでいくというふう④に発想を転換できるのではないだろうか？

作者は一体、何を言おうとしているのだろうか？そしてその主張は、どんなところから来ているのだろうか？ それを探るのは、常に、⑤奥へ、奥へと言葉の森を分け入っていくイメージである。

一冊の本をじっくりと時間をかけて読めば、実は、一〇冊分、二〇冊分の本を読んだのと同じ手応えが得られる。これは、d比喩でも何でも無い。実際に、その本が生まれるには、一〇冊、二〇冊分の本の存在が欠かせなかったからであり、私たちは、⑥スロー・リーディングを通じて、それらの存在へと開かれることとなるのである。

(注) 所詮……どう言っても結局

(平野 啓一郎『本の読み方』)

問一 二重傍線部 a、b、c、d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

問二 空欄 A・B に入る言葉として最も適切なものを次の中から選び、符号で答えなさい。

ア あえて イ まずしは ウ 決して エ たとえ オ じつに

問三 傍線部①「秘密」と同じ意味の語句を同じ段落の中から二十字以内で抜き出しなさい。

問四 傍線部②の類義語として最も適切なものを次の中から選び、符号で答えなさい。

ア 容易に イ 単純に ウ 素直に エ 慎重に

問五 傍線部③の具体的な内容となっている部分を文中から二十五字以内で抜き出し、初めと終わりの三字を答えなさい。

問六 傍線部④とは何の「発想」か、漢字二字で答えなさい。

問七 傍線部⑤と反対の「読み方」を述べた部分を、文中から二十字以内で抜き出しなさい。(句読点や符号を含む)

問八 傍線部⑥「スローリーディング」とあるが、このことについて文中で筆者が述べている読み方に当てはまるものは1、そうでないものは2と答えなさい。

- ア 高校生の時、ボランティア活動で、小学生の子ども達に童話を朗読した。
- イ 小説を斜め読みしながらポイントとなる表現をつないで全体を理解した。
- ウ 推理小説の謎解きの仕掛けや工夫を見落とさないように注意して読んだ。
- エ 国語の授業で指名をされて、課題文をはつきりと大きな声で音読をした。
- オ 文章の気になる所に線を引き、自分の心情を書き込みながら本を読んだ。

国語常識に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の文の空欄に入れるのに最も適切な語句を後から選び、それぞれ符号で答えなさい。

① 思いがけない出来事に（ ）し、驚いてしまった。

- ア 面会 イ 対面 ウ 直面

② 選挙の投票率には、政治に対する市民の（ ）の高さが反映していると言えそうだ。

- ア 良識 イ 知識 ウ 意識

③ 日頃から風邪をひきやすい人は、体質の（ ）が必要だ。

- ア 改良 イ 改善 ウ 改造

④ 火事の際の爆風の（ ）で、大勢の人が倒れた。

- ア ショック イ 痛手 ウ 打撃

問二 次の言葉の意味として最も適切なものを後から選び、それぞれ符号で答えなさい。

① 寒村

- ア 雪が深く降り積もっている村。 イ 人気がないさびしい村。 ウ 気候が寒い地方の村。

② 浮き足立つ

- ア 足が水面に浮いていること。 イ うれしくて心がはずむこと。 ウ 逃げ腰になること。

③ 内憂外患

- ア 「内」からと「外」からとは状況が違うこと。
イ 「外」からはともかく「内」は落ち着いていること。
ウ 「内」「外」とともに心配や苦勞の種が尽きないこと。

④ 付和雷同

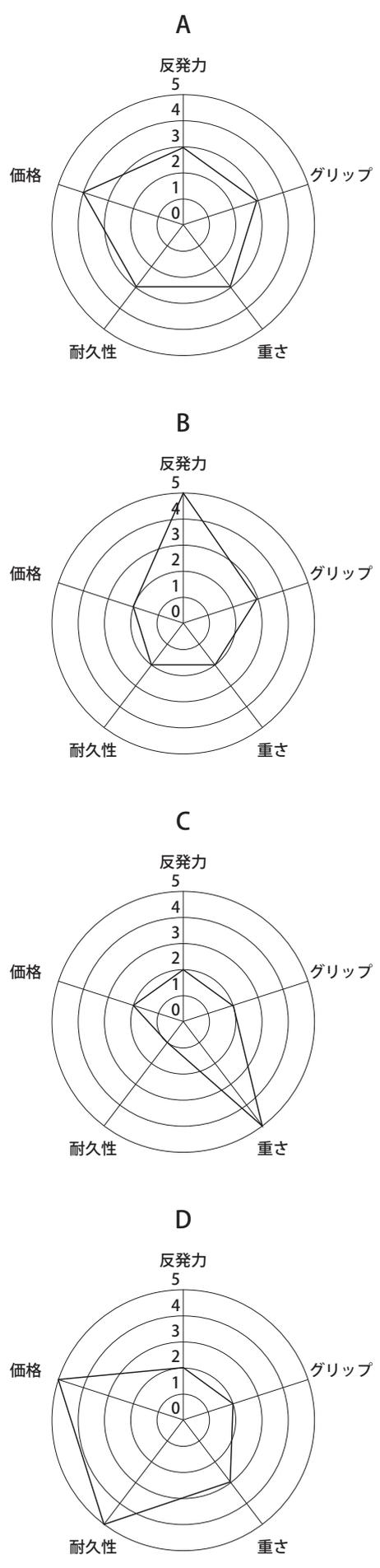
- ア 自分の考えもなく、ただむやみに他人の意見に従うこと。
イ 本当は他人の意見に賛成だが、一応反対の意見を言ってみること。
ウ 本音は他人の意見に反対だが、全体のため自分の考えをまげて賛成すること。

問三

次の傍線部のカタカナに当てはまる漢字として最も適切なものを選び、符号で答えなさい。

- ① 掃除機の使い方について電気屋さんから細かいシジを受けた。 (ア 支持 イ 指示)
② 入院中の友人の病状はカイホウに向かっているそうだ。 (ア 快方 イ 開放)

次の資料は、部活動で使用するシューズを購入するために、候補となるA～Dの会社の製品を項目別に五段階評価したものです。これを見て、後の問いに答えなさい。なお、「重さ」の評価は、数字が高いほど、軽量であることを示し、「価格」の評価は、数字が高いほど安価であることを示しています。



問一 図表から読み取れることとして適切なものを二つ選び、符号で答えなさい。

- ア B社の製品は、最もよい材料を使用している。
- イ どの会社も、「重さ」には一定の配慮をしている。
- ウ 評価が全体的に最も悪い製品はA社の製品である。
- エ グリップに関しては、どの会社の製品も大きな差はない。
- オ 最も高価なのは、A社の製品である。
- カ デザイン性に優れているのは、C社の製品である。

①～③の部活動生は次のような考えを持っています。これらの希望を満たす製品として最も適切なものを、A～Dの中から選び、符号で答えなさい。

部活動生①

【考えⅠ】 予算が少ないので、価格はできるだけ安くおさえない。

【考えⅡ】 手入れをしながら、できるだけ長く使えそうな製品がほしい。

部活動生②

【考えⅠ】 キレのある動きが自分の特徴なので、反発力に優れた製品を使用したい。

【考えⅡ】 反発力以外の項目に関しては、特に関心はない。

部活動生③

【考えⅠ】 どの項目も大切に感じるので、バランスを重視した製品を使用したい。

【考えⅡ】 できれば、価格は安くおさえない。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある時、狐きつね餌食えじきを求めかねて、ここかしこaをさまよふさまよ処ところに、鳥とり、肉にくをくはへて木の上に居をれり。狐心bに思おもふやう、「我この肉を取らまほしく」狐がえさを覚えて、鳥の居あける木のもとに立ち寄り、「いかに御ご辺へん。御身ごみは万よろづの鳥の中に、すぐれて美しく見みえさせおはします。奪うばいたいと思おもわれて

しかりといへども、少し事足り給はぬ事とは、御声ごこゑの鼻声はなこゑにこそ侍はべれ。ただし、この程ほど世上じやうじやうに申ませしは、『御声も事ことの外ほか、よくそうは言つても、不足ふそくなきつていることとして、鼻声はなこゑでござります。しかしながら、近ちかごろ世間よこで申まし上げていたことは、立派りっぺいにお見みえになります。

渡わたらせ給たまふ』など申ましてこそ候まうへ。あはれ、一曲聞ひかまほしうこそ侍はべれ」と申ましければ、鳥とり、この義ぎをま実まにと心得こころえて、「さらば声こゑをいらつしやるま申ましてました。ああ、一曲聞ひかきたくと申まし上げたので、このことを、本ほん当とうだ

出いさん」とて、口くちを開ひける隙ひまに、終ついに肉にくを落おとしぬ。狐きつね、これを取りて逃にげ去さりぬ。そのごとく、人ひと、いかにほむるといふとも、肉にくを落おとしてしまった。そのように、

いささか誠まことと思おもふべからず。もし、この事を少しも信まぜば、慢気まんき出来できせん事こと疑うたひなし。人ひとのほめん時は、謹へりくんでなほ謙けんるべし。（注1）慢気まんき出来できせん事こと疑うたひなし。人のほめん時は、謹へりくんでなほ謙けんるべし。かしこまってさらに控かえめにするのがよい。

(注1) 慢気……おごり高ぶる心。

〔伊曾保物語〕による

問一 傍線部 a・b を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで答えなさい。

問二 傍線部 ①・③・⑤の文中の意味として、最も適切なものを次の中から選び、符号で答えなさい。

① 「よへ」

- ア おとなしくて
- イ かわいそうで
- ウ 素晴らしくて
- エ 珍しくて

③「さげば声を出さん」

- ア そうならば、声を出さないでおこう
イ そうならば、声を出せと言おう
ウ そうならば、声を出してくれよ
エ そうならば、声を出そう

⑤「いささか」

- ア 少しも
イ 真剣に
ウ 全部
エ 強引に

問三

傍線部②とあるが、誰が、どのようなことを予想してこのように言ったのか。それを説明した次の文の空欄に当てはまる語を次の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。

(A) が歌おうとして口を開けるだろうと (B) が予想した。

- ア 烏
イ 我
ウ 狐
エ 肉

問四

傍線部④が指す内容を文中から抜き出しなさい。

問五

次は、本文を学習した生徒と教師の会話である。会話文中の空欄に入る言葉を、文中から五字で抜き出しなさい。

教師 …この話は「伊曾保物語」というイソップ物語を翻訳したものの中の話です。

生徒 A …イソップ物語はよく幼い頃に絵本で読んでいました。

生徒 B …私もよく読みました。「アリとキリギリス」や「北風と太陽」が印象に残っています。

生徒 A …私でもです。ただ面白いだけの話ではなくて、そのお話から教えてもらおうこともあったと思います。

教師 …そうですね。寓話を通して、人生の教訓を学べるのが面白いところですね。今回学んだ本文では、狐と烏の話とそれを踏まえた編者の教訓部分とに分かれています。編者の教訓部分はどこからか、わかりますか。

生徒 B …ええと…… () からですね。

教師 …その通りです。

生徒 A …古文は遠い昔の文章で、私たちには馴染みがないと思っていただけで、幼い頃に読んだ絵本に近い話があるとわかると、少し興味が湧きました。

教師 …そうですね。もっと古文に親しみを持てるように、次の時間は「伊曾保物語」の他の話も読んでみましょう。

令和五年度(専願)国語解答用紙

受験番号
出身学校
氏名
得点

一

問一 a

b

c

d

え

問二 A

B

問三

問四

問五

ゝ

問六

問七

問八 ア

イ

ウ

エ

オ

二

問一 ①

②

③

④

問二 ①

②

③

④

問三 ①

②

三

問一

問二 ①

②

③

四

問一 a

b

問二 ①

③

⑤

問三 A

B

問四

問五